2022 年度 第 3 回 JSR 編集委員会 議事録

日時：2022 年 8 月 29 日（月）19 時半
場所：オンライン（Zoom）会議
出席予定：川口 善治（担当理事)、大島 寧（委員長）明田 浩司、石井 賢、今城 靖明、鈴木 亨暢、竹内 大作、髙畑 雅彦、茶薗 昌明、出村 諭、二階堂 琢也、長谷 斉、福岡 宗良
長谷川 和宏（アドバイザー）

杏林舎／田村、山田、靏間、明松（記）

審議事項
1，関連学会（7 学会）の投稿査読システム ScholarOne Manuscripts（S1M）の利用について

杏林舎から関連学会が S1M を導入するための案が 2 点提案された。
【A 案】：各関連学会に新規で S1M システムを設置、各自学会で別々に投稿を受付
【B 案】：既存の JSR 投稿 S1M システムから、関連学会の投稿も受付
それを踏まえ S1M の導入について各学会の意思確認を行った。

東海脊椎脊髄病研究会（福岡委員）
・独自のジャーナルを持っており、掲載決定後に独自ジャーナルと JSR のどちらに載せるか決めている。
・査読者は学会の先生方で決まっていたが、特集ごとに担当者がいるので A 案なら問題はないが B 案の場合はすぐ変更する事は難しい。
・システム移行の要望が出ているわけではないが、データでやり取りが出来るならそちらの方が好ましい。

日本腰痛学会（二階堂委員）
・現時点で委員の先生に話をしたが学会としての審議はまだ行っていない。
・編集事務局の負担が減るならばどちらかと言えば導入したい。

日本脊椎・脊髄神経手術手技学会（長谷委員）
・A 案がよい。
・整形外科以外の査読者もいるので従来のやり方のままシステムを利用したい。
・編集委員会としてのコンセンサスは得られている。

日本低侵襲脊椎外科学会（石井委員）
・学会としてオンライン化について決定している事はない。

日本脊椎インストゥルメンテーション学会（竹内委員）
・現時点でまだ学会として話し合いが行えていない。
・編集事務局は毎日学術フォーラムがやっているので変更する場合は契約上、業者変更は来年以降になる。
・編集事務局の変更が必要になるB案になった場合の見積もりが気になる。

日本側彎症学会（出村委員）
・学会には聞いていないが11月に会議があり、議題に挙げる予定。
・編集事務は毎日学術フォーラムがやっておりコストの面などもあるため理事会を通してからの回答になる。

※西日本脊椎研究会は音声不具合により委員会中の報告はなし。

- 長谷川アドバイザー：オンライン化について各学会で正式に検討してほしい。
- 明田委員：各学会の査読者はどうするのか。
- 川口理事：7学会の特徴を生かしたReviewerによる査読を生かしていった方がいいと考える。
- 長谷川アドバイザー：B 案だと学会単位の締切管理が出来ないなど色々問題があるためオンライン化する場合A案を前提として検討頂くのが望ましいのではないか。

<u>→杏林舎からの見積もりを示し、各学会でS1Mの導入について検討して頂く。次回のJSR編集委員会にて来年度以降の方向性を決める事とした。</u>

2，JSR投稿状況（依頼論文の投稿数について
<u>→現時点で依頼論文の投稿数が少ないため、以下の対応を行う事とした。</u>
・9月末まで様子を見て投稿数が増えない様ならリマインドメールを送る。
・今後依頼メールを送る際は投稿出来ない理由を返信して頂く。

3，アプリについて
<u>→マイスワンとの契約を本年度も継続する。</u>